

# 平成24年度 第42回全国中学校バスケットボール大会（埼玉県大会）のルールについて

（一部新ルールの採用・・・2011～バスケットボール競技規則についてどの部分を採用せずに実施するかの確認）

※平成23年（公財）日本中学校体育連盟バスケットボール競技部会により決定しました

1 ~~旧コート~~、6号球で実施すること

2 新ルールを採用しない部分の確認（一部ルールの採用）



【2011～バスケットボール競技規則（財）日本バスケットボール協会】参照

## ①第2章 コート、用具、器具

第2条 コート 2, 4, 3制限区域 2, 4, 4スリーポイントエリア

2, 4, 7ノー・チャージ・セミサークル

\* 2, 4, 6スロー・イン・ラインについては採用するが、(1)スリーポイントラインの頂点の位置とするところである・・・については削除する

## ②第3章 チーム

第4条 チーム 4, 3ユニフォーム

4, 3, 1(3)は、削除する（採用しない）

\*新コートに変更しないと採用できないルール以外は、2011年4月1日～変更された競技規則に則って実施することとなります。例外は、ユニフォームについての4条3の1(3)を採用しないことのみとなります。

# Official Basketball Rules 2010

(FIBAの主な公式大会「Level 1」では、2010年男女世界選手権後、2010年10月1日より施行)  
(FIBAの主な公式大会以外あるいは各国内の主な大会では、ロンドンオリンピック後、2012年10月1日より施行)

## 制限区域:

制限区域の形と大きさが変更される。

形は台形ではなく、長方形となる。

バスケットからフリースロー・ラインまでの距離、フリースロー・ライン自体の長さは現行のままである(図2参照)。

条文の規定:

### 制限区域

制限区域は、次のラインで区画されたコート**の長方形の部分**をいう[(2), (3)はラインを含む]。

- (1) エンド・ライン
- (2) フリースロー・ラインおよびフリースロー・ラインを延長したライン
- (3) エンド・ラインの中央から左右2.45mの点からフリースロー・ラインを延長したラインとの交点まで、エンド・ラインと直角に描かれた2本の直線(寸法はラインの外側までとする)

## スリー・ポイント・ライン/スリー・ポイント・エリア:

バスケットの中心からスリー・ポイント・ラインの外側の縁までの距離が50(cm)延長され、6.75(m)に変更される。

コート自体の大きさは現行のままである(図1参照)。

条文の規定:

### ツー・ポイント/スリー・ポイント・フィールド・ゴール・エリア

1チームのツー・ポイント・フィールド・ゴール・エリア(以下、ツー・ポイント・エリアという)とは、相手チームのバスケットに近い、次に示すラインで区画された(ラインを含む)コートの部分をいう。

- (1) 外側の縁までの距離がサイド・ラインの内側の縁から0.90mとなるようにエンド・ラインと直角に描かれた2本の平行な直線
- (2) (1)のライン(直線)との交点まで描いた相手チームのバスケットの真下を中心とする円周の外側までが半径6.75mの半円の一部
- (3) エンド・ラインの内側の縁から半円の中心までの距離は1.575mとする。
- (4) (1), (2)で表されるラインをスリー・ポイント・ラインという。

1チームのスリー・ポイント・フィールド・ゴール・エリア(以下、スリー・ポイント・エリアという)とは、コートのツー・ポイント・エリアを除いた部分をいう。

## 3. スロー・イン・サイド・ライン:

オフィシャルズ・テーブルの反対側のサイド・ラインに、コートの外側に向かって直角に、あらたに短いラインを描くことになる。

このラインを描く位置は、エンド・ラインの内側の縁から8.325(m)のところとする(これは、~~あらたなスリー・ポイント・ラインの頂点の位置と一致するところである~~)。

このラインを「スロー・イン・サイド・ライン」とよぶこととする(図1参照)。

第4ピリオドまたは各延長時限の最後の2分間にタイム・アウトが認められ、タイム・アウトを認められたチームのバック・コートから、そのチーム(タイム・アウトが認められたチーム)にスロー・インのボールが与えられてゲームが再開される場合は、そのチームのフロント・コートの「スロー・イン・サイド・ライン」の位置からスロー・インをすることに変更される。

条文の規定:

#### スロー・イン・サイド・ライン

オフィシャルズ・テーブルから遠いほうのサイド・ラインに、コートの外側に向かってサイド・ラインと直角に短いラインを描く。このラインをスロー・イン・サイド・ラインという。

- (1) ラインを描く位置は、エンド・ラインの内側の縁から8.325(m)のところとする(これは、スロー・イン・ポイント・ラインの頂点の位置と一致するところである)。
- (2) ラインの長さは、サイド・ラインの外側の縁から15cmとする。

**ノーマル・チャージ・セミサークル:**  
相手チームのバスケットの真下を中心とする円周の内側までが半径1.25mの半円を、あらたにコート内に描くことになる。

この半円を「ノーマル・チャージ・セミサークル」とよぶこととする(図2参照)。

防御側プレイヤーがノーマル・チャージ・セミサークル内にいたときは、たとえ触れ合いの責任が攻撃側プレイヤーにあったとしても、その攻撃側プレイヤーにチャージングのパーソナル・ファウルが宣せられることはない。

チャージング以外のファウルについては、すべてのファウルが防御側プレイヤーと同様に攻撃側プレイヤーにも適用される。

条文の規定:

#### ノーマル・チャージ・セミサークル

ノーマル・チャージ・セミサークルとは、制限区域内に描かれた、次に示すラインをいう。

- (1) バスケットの真下を中心とする円周の内側までが半径1.25mの半円と、その端をサイド・ラインと平行にエンド・ラインの内側の縁から1.2mの位置まで延長したライン(ラインの端はバックボードの表面の位置と一致する)
- (2) エンド・ラインの内側の縁から半円の中心までの距離は1.575mとする。

#### 5. 24秒ルール:

フロント・コートでスロー・インのボールが与えられるときに24秒計がリセットされるケースが、あらたに「リセットされずに継続してはかるケース」、「14秒にリセットされるケース」に分類されることになる。

現行の規則で継続してはかることになっているケースについて、あるいは攻撃側チームが自チームのバック・コートからスロー・インを行う場合で24秒計がリセットされるケースについては、従来のとおりで変更はない。

攻撃側チームが自チームのフロント・コートでスロー・インのボールが与えられる場合で24秒計がリセットされるケースについては、次の2つのケースに分類される。

- ① 24秒計の残り時間の表示が14秒以上であったときは、24秒計はリセットされず、残りの時間を継続してはかる。
- ② 24秒計の残り時間の表示が13秒以下であったときは、24秒計は14秒にリセットされる。

以上

お断り:

本概略は、FIBA より発表された変更に関するまとめです。

競技規則書に掲載される際には、用語・表現が変更になることがありますので、ご了承ください。